

事例 3

～発電設備設置場所の地盤が有する問題点を克服した事業化事例～ 産業廃棄物最終処分場跡地での太陽光発電事業

■事業及び発電設備の概要

三山クリーン(株)では、最終処分場の跡地利用について、有効活用・維持管理面での負担の軽減といった視点から再生可能エネルギー導入を検討していた。福島県浜通りは、太平洋側に位置しており、日照時間が長く、冬季間の積雪の心配も少ないという特性をもつ地域であるため、独立型の太陽光発電設備の導入を計画し、太陽光発電設備を建設した。

(導入設備)

太陽光電池、架台、パワーコンディショナー等

(太陽電池概要)

設備規模：413kW

埋立面積：約 6,471㎡

パネル枚数：1,708 枚

年間発電量(想定)：432,718kWh

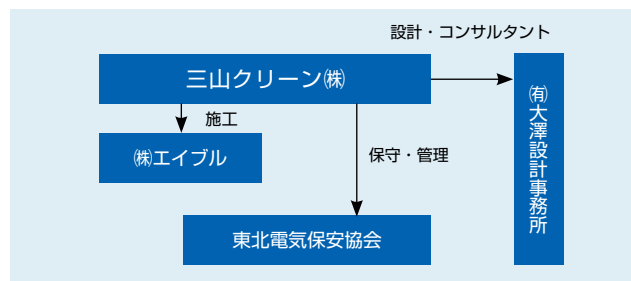
■事業実施上の課題

産業廃棄物最終処分場跡地に太陽光発電設備を設置するにあたり、地盤沈下及び腐食ガス発生といった、廃棄物処分場特有の問題を解決すると共に、最終処分場の保守・管理に支障をきたさないような設置施工を行うことが課題であった。

また、許認可手続においても、太陽光発電に関連する一般的な手続に加えて、産業廃棄物法の手続が必要となった。



■事業の実施体制



■利用した施策と内容

・廃棄物埋立処分場等への太陽光発電導入促進事業「平成 26 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を利用した。

■施策を利用したことによる事業の成果

施策の利用により、WEB クラウドサービスを活用した、遠隔監視システムを導入することができたため、障害・トラブルが即把握でき、対応もスムーズに行える仕組みが構築された。

コンサルタントの利用により、必要な手続きを完了し、事業開始につなげることができた。

格子状杭による荷重分散及び垂鉛メッキによる防食加工等を施した架台を導入することやガス抜き管の設置により、廃棄物処理場においても太陽光発電設備の導入が可能となった。

■問い合わせ先

三山クリーン株式会社

住所：いわき市常磐藤原町別所 33 - 1

URL：<http://miyama-cl.com/index.html>